令和４年度

事　業　報　告　書

with one's heart in the right place

HEALTH RESORT

のぞみの杜

社会福祉法人　のぞみ会

介護老人福祉施設　のぞみの杜

居宅介護支援事業所　のぞみの杜

短期入所生活介護事業所　のぞみの杜

個室ユニット型短期入所生活介護事業所　のぞみの杜

通所介護事業所　のぞみの杜ふれ愛

デイサービスセンタースヨさん家　のぞみの杜

元気の湧　のぞみの杜

認知症対応型共同生活介護事業所　のぞみの杜

生活支援ハウス　のぞみの杜

もりのほいくえん　のぞみの杜

長崎県西彼杵郡長与町吉無田郷１５７８

TEL０９５－８８７－３３３３／FAX０９５－８８７－３５９９

http://www.nozominomori.or.jp

令和４年度事業報告

はじめに

令和４年度は、コロナ感染拡大防止の観点から様々な活動を自粛、縮小して３年目に突入する中で、感染力の強いオミクロン株の流行で毎日クラスター発生のニュースが流れる等、感染症の難しさを強く感じた１年であった。

そのような中、高齢者福祉施設等、各事業所も最善の注意を払い、感染対策を図ってきた。特に不特定多数が集まるデイサービスではいち早く感染に気づくことが重要で、高齢者の少しの変化を見逃さない取り組みを重ねた。

しかしながらそこはやはり感染症、のぞみの杜の事業所にも容赦なく入り込み、事業の休業を余儀なくされた。

福祉施設においても、職員から感染したと思われる１人の入居者から広がり、瞬く間に広がった。職員も、互いに協力し合い日々のケアに務めた。しかし、高齢者にとって感染するリスクは、機能的低下、身体的レベル低下を及ぼすなど感染症対策の重要性を感じた。

感染対策は行っていたものの、感染するとみるみる広がっていくウイルスに一度は、感染を拡大させてしまったが、その経験を生かし、ウイルスの早期発見と、備えを強化しその後は、感染が確認されてから最小限、最短期間で治めることが出来た。

また、今年度から実施したエビデンスのある科学的介護の取組もコンサルタントの指導の下進んでいる。基本的なケアである水分摂取、排便コントロール、睡眠、運動等基本的ケアにアプローチし、各事業所で対象者を決め取組を行っているが、認知症症状の改善、良質な睡眠へと繋がる成果もみられた。変化があった本人、家族、スタッフの喜びに繋がった。介護保険の目的の一つでもある自立支援に向けて、更なる成果をだしていけるよう今後も継続して取り組んでいく。

設置主体　社会福祉法人　のぞみ会　　理事長　池　原　　泉

所　在　地

長崎県西彼杵郡長与町吉無田郷 1578 番地

Tel　095-887-3333　　Fax　095-887-3599

http://www.nozominomori.or.jp

社会福祉法人　のぞみ会　沿革

平成　６年　２月２５日	社会福祉法人　のぞみ会　法人認可
平成　６年１２月１４日	特別養護老人ホーム　のぞみの杜　開設認可
平成　６年１２月１５日	特別養護老人ホーム　のぞみの杜　事業開始 (併設事業　短期入所事業)
平成　６年１２月２１日	デイサービスセンターのぞみの杜　事業開始
平成１１年１０月　１日	居宅介護支援事業所　のぞみの杜　開設
平成１２年　４月　１日	訪問介護事業所　のぞみの杜　開設
平成１２年　６月１０日	通所介護事業所　のぞみの杜　定員増 定員３０名　⇒　定員４０名
平成１３年　９月１４日	通所介護事業所　のぞみの杜　拡張開始 定員４０名　⇒　定員６０名
平成１３年　９月１５日	ヘルパーステイション　のぞみの杜　開設
平成１３年１２月　１日	グループホーム　のぞみの杜　開設
平成１４年　２月２２日	高齢者生活支援センター　のぞみの杜　開設
平成１８年　４月　１日	介護予防事業（通所・訪問・短期・居宅）
平成１８年　９月１３日	個室ユニット型２０床改修工事着工
平成１９年　３月２０日	のぞみの杜改修工事竣工
平成１９年　４月　１日	個室ユニット型２０床　開設 短期入所生活介護事業所　増床 定員２０床　⇒　定員３０床
平成２１年　３月３１日	訪問介護事業所　休止
平成２１年　８月　１日	通所介護事業所　新館へ移動
平成２１年　９月２４日	デイサービスセンター　財産処分承認
平成２１年１２月　１日	デイサービスセンターのぞみの杜スヨさん家開設
平成２２年　８月　１日	短期入所生活介護事業所　１０床増　定員４０床
平成２３年　３月３１日	訪問介護事業所　廃止
平成２４年　５月　１日	給食委託事業廃止　直営にて提供

平成２４年１２月	１日	スマイル・キッチンオープン
平成２５年　２月	１日	長崎県福祉サービス第三者評価受審
平成２５年　３月	１日	ユニットリーダー研修実地研修施設 認定
平成２５年　７月１６日		個室ユニット型改修工事関連　着工
平成２６年　１月３１日		個室ユニット型関連改修工事　竣工
平成２６年　２月	１日	介護老人福祉施設完全個室ユニット型５０床開設
平成２６年　２月	１日	短期入所生活介護事業所　定員４０人⇒２８人
平成２６年　４月	１日	個室ユニット型短期入所生活介護事業所　定員１０人開設
〃		短期入所生活介護事業所　定員２８人⇒１８人
平成２８年　３月	１日	ユニットリーダー研修実地研修施設 再認定
平成２８年１１月	１日	元気の湧　のぞみの杜　定員３０人開設
平成２８年１１月	１日	通所介護事業所　定員８０人⇒７０人
平成２９年　４月	１日	生活困窮者レスキュー事業開設
平成２９年　９月	１日	元気の湧　のぞみの杜　定員３０人⇒４０人
平成３０年　４月	１日	もりのほいくえん　企業主導型保育園委託事業開園 （委託先：株式会社メディフェア）
平成３０年　８月	１日	元気の湧　のぞみの杜　定員４０人⇒５０人
令和　１年　７月	１日	元気の湧　のぞみの杜　定員５０人⇒６０人
令和　２年　４月	１日	もりのほいくえん　企業主体型保育園自事業として開園
令和　３年　１月２２日		短期入所生活介護事業所　定員１８人⇒１３人
令和　３年　４月	１日	元気の湧　のぞみの杜　定員６０人⇒７０人
令和　４年　１月２３日		社会福祉法人のぞみ会　研修施設　設置
令和　４年１１月	１日	通所介護事業所のぞみの杜 ふれ愛 定員７０人⇒６０人

敷地面積

建物延面積		６，４３７．１９㎡
敷地面積	基本財産	１５，１５３．７７㎡
	運用財産	９，０４３．６８㎡（2,651.2 ㎡増）

事業概要（令和４年３月末現在）

介護老人福祉施設　のぞみの杜	（定員　５０名）
のぞみの杜　短期入所生活介護事業所	（定員　１３名）
のぞみの杜個室ユニット型短期入所生活介護事業所	（定員　１０名）
通所介護事業所　のぞみの杜　ふれ愛	（定員　６０名）
デイサービスセンターのぞみの杜　スヨさん家	（定員　１０名）
元　気　の　湧　のぞみの杜	（定員　７０名）

グループホーム　の ぞ み の 杜　　（定員　　９名）
生活支援ハウス　の ぞ み の 杜　　（定員　１２名）
居宅介護支援事業所　の ぞ み の 杜
介護予防事業
生活困窮者レスキュー事業
子ども支援事業

法人役員　理　事　６名　　監　事　２名　　評議員　７名
第三者委員　２名　　評議員選任解任委員　３名　入居判定委員　２名

令和４年度　主な行事、事業等

日　付	行　事　・　事　業　等
4 月 26 日	新人研修
4 月 29 日	ユニットリーダー実地研修受入れ
6 月 20 日	保育園 歯科検診
6 月 30 日	長崎玉成高等学校 企業説明会
7 月 8 日	仕事しごとみらい博　出店・説明会
7 月 15 日	介護人材育成センター ロジ　オンライン施設見学会
7 月 19・21・26 日	長崎純心大学 介護等体験事前オリエンテーション講師派遣 2 名
7 月 23 日	リクルート見学会 IN のぞみの杜
7 月 30 日	のぞみの杜 夏祭り
9 月 7 日	安全運転管理者講習
9 月 15 日	敬老会 もりのほいくえん交流会
9 月 18 日	台風 14 号対策のための「福祉避難所開設」
9 月 20 日/10 月 17 日	職員健康診断　【長崎県健康事業団】
9 月 29 日	Nozomi news paper 12 号発刊
10 月 2 日	インターシップ・介護助手体験受入れ　2 名
10 月 31 日	もりのほいくえん　ハロウィンパレード
11 月 12 日	生涯現役面談会
11 月 16 日	介護ロボット面談会
11 月 17 日	介護・保育合同面談会

11 月 21 日	長崎玉成高等学校　実習施設事前見学
11 月 28 日	もりのほいくえん　消防署立会避難訓練
12 月 1 日	社会福祉法人のぞみ会　忘年会
12 月 12 日	接遇研修
12 月 15 日	もりのほいくえん 園児健康診断
12 月 26 日	もりのほいくえん Xmas 交流会
1 月 8 日	Nozomi news paper　13 号発刊
1 月 19 日	もりのほいくえん　不審者対応避難訓練
1 月 26 日	普通救急救命講習 I 受講　BCP 対策委員 6 名参加
1 月 31 日/2 月 7 日	介護助手体験受入れ　2 名
2 月 21 日	夜勤従事者 健康診断【長崎県健康事業団】
2 月 18 日/3 月 4 日	サロンインストラクター養成講座開催
3 月 2 日	長崎純心大学　地域包括支援学科実習研究協議会参加
3 月 16 日	同一労働同一賃金コンサル
3 月 25 日	もりのほいくえん　お別れ会
3 月 30 日	日本赤十字社　献血

介護実習受入

6 月 9 日～	長崎玉成高等学校　介護実習Ⅱ　特養
7 月 2 日～	長崎玉成高等学校　介護実習 I　グループホーム
8 月 8 日～	純心大学　ふれ愛　実習
10 月 12 日～	長崎玉成高等学校　介護実習Ⅱ　特養
12 月 5 日～	長崎玉成高等学校　介護実習 I　通所介護事業所・グループホーム
3 月 9 日	ウェスレヤン大学　ソーシャルワーク実習Ⅱ

～理事会　開催状況～

役員会の状況　　理事会　2　回　　評議員会　1　回

会議開催日	議　　案　　等
第1回理事会	1. 社会福祉法人のぞみ会 令和3年度事業報告について
令和4年6月14日	2. 社会福祉法人のぞみ会 令和3年決算報告書（案）について
	3. 車輌の増車（案）について
	4. 定款の変更（案）について
	5. 評議員会の招集について
	6. 諸規定の一部改正（案）について
第2回理事会	1. 社会福祉法人のぞみ会諸規定の一部改正（案）の承認について
令和4年9月30日	2. 業務執行理事の選任について　その他検討事項
第3回理事会	1. 社会福祉法人のぞみ会令和4年度第一次補正予算（案）の承認について
令和5年3月27日	2. 社会福祉法人のぞみ会令和5年度事業計画（案）の承認について
	3. 社会福祉法人のぞみ会令和5年度収支予算（案）の承認について
	4. 寄付金の支給（案）について
	5. 諸規定の一部変更（案）について
	6. 退職引当金に伴う保険加入について
	7. 評議員会の招集について
	8. のぞみの杜 重要な人事案件について（案）

～評議員会 開催状況～

会議開催日	議　　案　　等
第1回評議員会	1. 令和3年度 社会福祉法人のぞみ会事業報告について
令和4年　6月29日	2. 社会福祉法人のぞみ会決算報告書（案）について
	3. 定款の変更（案）について

～各種会議開催状況～

会議名	項目	内容等
管理会議	開催日	毎月 第４水曜日
マネジメントレビュー	開催日	９月、２月（年２回）
	参加者	施設長、部長、次長、各事業所の長
	内容	ＱＭＳにおける継続性、妥当性の検証　効果確認等
事業所会議	開催日	毎月開催（短期、通所、元気の湧、スヨさん家、支援ハウス、グループホーム、居宅、スマイルキッチン）
	参加者	各事業所スタッフ
	内容	拡大会議報告、伝達事項、検討協議事項、ケアカンファレンス
運営推進会議	開催日	グループホーム（２ヶ月に１回）、スヨさん家（半年に１回）
	参加者	運営推進委員（地域）、長与町地域包括支援センター、長与町介護保険課、介護支援専門員、事業所長、スタッフ等
	内容	事業所の概要・報告、取り組み、地域との連携等
入居判定会議	開催日	随時（特養、グループホーム）
	内容	入居判定
ユニット会議	開催日	毎月１回開催
（各ユニット・事業所）	参加者	各ユニット所属職員
	内容	リスクマネジメント検討、拡大会議報告、伝達事項、検討協議事項、業務改善提案、ケアカンファ等
ユニットリーダー会議	開催日	毎月１回、必要に応じて随時
	参加者	副主任、ユニットリーダー、課長等
	内容	業務の連携・課題・取り組み報告・リスク管理・相談等
ケアカンファ会議	開催日	随時
	参加者	ご家族、相談員、ケアマネージャー、担当職員、看護師等
	内容	ケアカンファレンス、ケアプラン検討等

～各種部会・委員会開催状況～

安全管理部会	参加者	施設長、各事業所役付職員（毎月開催）
	目的	予防の観点からの予知予測を徹底し、事故発生件数の減少を
		図る事の周知
衛生管理部会	参加者	施設長、各事業所役付職員（毎月開催）
	目的	衛生管理を徹底し、感染症や食中毒の予防や蔓延防止策を図る
		衛生にかかる意識を高め感染を防止する
		衛生管理研修の企画、実施
苦情対策部会	参加者	施設長、各事業所役付職員（毎月開催）
	目的	苦情に真摯に向き合い、より良いサービスの提供を図る
		顧客満足を顧客感動に変え得るサービスを追求し、苦情ゼロへと繋げる
		苦情になり得るヒヤリハットから予知予測される苦情のマネジメント強化
		を図る
研修部会	参加者	施設長、各事業所役付職員（毎月開催）
	目的	専門性として更なるスキルアップとなる研修を企画し、高品質のサービス
		へと繋げる
身体拘束廃止・	参加者	施設長、身体拘束廃止委員会委員
虐待防止委員会	目的	入居者及び利用者の尊厳を保証し、その尊厳に向き合う職員を守る
		虐待を起こさせない組織運営強化
入所判定委員会	参加者	施設長、入所判定委員
	目的	特別養護老人ホーム、グループホームの適切な入居判定を行いスムーズ
		な入居を図る
品質向上委員会	参加者	施設長、各事業所長（毎月開催）
	目的	品質マネジメントの向上的展開により、更なる品質の向上・顧客満足を追求する
労働安全衛生委員会	参加者	施設長、各事業所長（毎月開催）
	目的	職場の安全と衛生、職員の健康に配慮し、快適な職場環境を推進する
安全管理委員会	参加者	施設長、各事業所長（毎月開催）
	目的	予防の観点からの予知予測を徹底し、事故発生件数の減少を図る
		事故発生にあたっては徹底した原因分析と再発防止策を図り、事故ゼロへと繋げる
BCP 対策委員会	参加者	施設長、BCP 対策委員会委員
【災害班・衛生班】	目的	災害や感染症発生時における早期事業の再開のための BCP の運用と訓練の実施

～施設外研修～

研　　修　　名	開催月	研修先	参加職種及び人員
～介護老人福祉施設～			
ユニットリーダー研修【座学】	6・7月	リモート	ユニットリーダー　2名
ユニットリーダー実地研修	2月	鹿児島	ユニットリーダー　1名
～通所介護事業所～			
レッドコード基礎コーススタビリティ研究会	11月	熊本	機能訓練士　1名
看護実務者研修プログラム	11月	諫早	看護師　1名
～元気の湧～			
コロナ禍における接遇研修	9月	リモート	機能訓練士・介護職　2名
レッドコード基礎コーススタビリティ研究会	11月	熊本	介護職　1名
住宅改修研修会	1月	リモート	機能訓練士・介護職　2名
BCP策定研修	12・3月	リモート	機能訓練士　1名
～GH～			
ユニットリーダー研修【座学】	6月	リモート	ユニットリーダー　1名
ユニットリーダー実地研修	3月	佐賀	介護リーダー　1名
～総務～			
介護ロボット導入・ICT導入支援事業補助金セミナー	11月	リモート	
厚労省委託事業BCP作成セミナー	3月	リモート	
～保育園～			
地域療育短期実習	6月	長崎市	
利用者支援事業研修会	2月	長与町	
～居宅介護事業所～			
ケアマネジャーとして医療と介護の連携に必要なこと	5月	リモート	全ケアマネ
完了感コミュニケーション技術	6月		全ケアマネ
読みやすい要点が伝わる支援経過記録の書き方	7月		全ケアマネ
長与町CM事例検討会	7月	長与町	全ケアマネ
ケアマネジャーが知っておくべき障害サービス	7月		全ケアマネ
返戻とヒューマンエラーについて	8月		全ケアマネ
認知症ケア理論とケア実践イーラーニング	8月		全ケアマネ
ケアマネ業務のチェックポイントと間違いのない記録の残し方	8月		全ケアマネ
虐待防止、身体拘束廃止研修	9月		全ケアマネ

家族支援のポイント	9 月		全ケアマネ
高齢者虐待防止ケアマネジメント研修会	10 月		全ケアマネ
難しい場面、状況から考える 8050 問題 本人、家族を支えるコミュニケーション	10 月		全ケアマネ
利用者、家族との関わり方	11 月		全ケアマネ
難病患者、災害対策について	12 月		全ケアマネ
BCP について	12 月		介護支援専門員　2 名
オーラルフレイルと低栄養の基本	12 月		全ケアマネ
2024 年医療と介護の同時改定の行方	1 月		全ケアマネ
株式会社リンクアップラボ研修	1 月		全ケアマネ
ケアプラン 2 表目標の期間設定	1 月		全ケアマネ
ケアマネ業務の 5 大変革を押さえる	2 月		全ケアマネ
長与町合同事例検討会	2 月		全ケアマネ
成年後見成制度研修会	2 月		介護支援専門員　4 名
ケアマネ業務のチェックポイント、記録の残し方	2 月		全ケアマネ
自殺対策研修会	3 月		介護支援専門員　2 名
厚労省委託事業 BCP 作成セミナー	3 月		介護支援専門員　1 名
認知症支援に関する専門職研修会	3 月		介護支援専門員　1 名
精神状態のアセスメント	3 月		全ケアマネ
～全体～			
ハラスメント研修会	4 月	のぞみの杜	一般職、管理職　各 1 回
PJH 代表　谷本正徳氏　自立支援介護講義	12 月～	のぞみの杜	全職員　【3 回分割】
普通救急救命講習 I	1 月	北消防署	BCP 対策委員　6 名
ﾘｽｸﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ研修	2 月	のぞみの杜	全職員
身体拘束廃止、虐待防止全体研修	2 月	のぞみの杜	全職員

～助成金研修～

研　　修　　名	開催月	研修先	備考
～居宅介護支援事業所～			
利用者中心の支援を考える虐待防止研修会	6 月	長崎	1 名

～資格取得応援助成金～

研修名又は資格の名称	開催月	所　属
介護支援専門員更新研修課程Ⅱ	6 月	居宅介護支援事業所
社会福祉士実習指導者講習会	9 月	居宅介護支援事業所
主任介護支援専門員更新研修	10 月	居宅介護支援事業所

～リーダー研修実地研修受入事業～

ユニットリーダー研修	受入人数開催期	受入都道府県	備考
8/2～8/4	2 名	長崎県	
10/4～10/6	3 名	長崎県	
10/18～10/20	3 名	福岡県・長崎県	
11/1～11/3	3 名	長崎県	
11/22～11/24	2 名	長崎県	
12/20～12/22	3 名	長崎県	
1/31～2/2	2 名	長崎県	

～施設内研修～

研　修　名	開催月	参加職種
新人研修	4 月	新入職職員
消防避難訓練	8 月	全事業所職員
消防避難訓練（夜間想定）	12 月	全事業所職員

介護老人福祉施設

総　括

令和４年度、科学的介護を今まで以上に推進していく事を目的に外部コンサルタントに入ってもらい理論や考え方、現場での実践方法、評価の方法、スタッフへの指導等について１年間学んできた。１年目の成果としては、理論として理解できたことや事例を通して実践経験を積むことができて実際に生活が改善した入居者もみられている。良い結果がでている反面、科学的介護を推進していく意義を隅々まで浸透させることが不十分で取り組みにあたって足並みがそろわないこともみられた。次年度は目的、意義をしっかりと示していき科学的介護を進めていき成果をあげていく事が求められる。

看取りでは令和４年度 11 名の方が施設で最後のときを迎えられた。そのうち９名の方の看取り介護を実施。本人、家族の状況はそれぞれに異なりその方らしい過ごし方と家族に寄り添う支援をしっかりとスタッフは実践してくれた。

８月に新型コロナウイルス感染拡大あり（入居者 12 名、職員 13 名　※もみじも含む）
日々の感染対策は実施していたものの、いざ感染が入り込むとその感染力の強さと初動の動きや情報共有の難しさなど様々な課題が上がってきた。１月に再度感染が確認された際は、その反省を活かし初めに発覚した４名でその後の感染者を出す事なく最短で隔離を解除することが出来たのは評価できる。この感染症で直接的な状態低下はもちろん、隔離期間が長くなることで二次的な機能低下もあることを経験し感染症対策の重要性を再確認した。

介護保険制度が今後はアウトカム・評価主義に移行していくにあたり現在取り組んでいる科学的介護を浸透させることで入居者の自立支援に繋げる、またその取り組みを通して職員の満足度にも繋げる、結果として地域や家族、求職者からも選ばれる事業所に繋げていく。

事業所計画においての報告と反省

『常に入居者を中心にチームケアを展開し生活に潤いを！』との目標のもと、各専門職が根拠を元にケアの展開する事（多職種協働）、皆が成長しワンランク上の仕事が出来る様になる事（人材育成）、安心して過ごせる環境を整える事（リスク管理）を重点的に取り組んできた。

・多職種協働について、入居者の変化に気付くことがあっても専門職がすぐに集まって協議するといったスピード感が不足しており後手後手に回ることもあった。
次年度はスピード感を意識して多職種でのミニカンファレンスを通して連携を強化していく

・人材育成では人事考課にて評価。現場は日々の業務を限られた人員の中で創意工夫をし行っている。短い時間でも直上上司直下部下との one on one ミーティングを効果的に実施していく事で自らの成長を意識する、そのことで自己肯定感をあげて、生産性の向上に繋げていきたい。

・令和４年度はＡランク事故３件（いずれも転倒→骨折）あり。是正の総数としては
令和３年比 72%（８件減少）と改善がみられている。

下半期に外部講師によるリスクマネジメント研修を全事業所向けに開催。研修で学んだ事を現場にフィードバックし再発防止を図っていく。

個室ユニット型短期入所生活介護事業所

総　括

令和４年度は新型コロナウイルス感染の拡大に伴いユニット内でも感染が広がり、ロングショートだけではなく特養でも入院・永眠により稼働に大きく影響を与えた。
コロナウイルス感染に伴う状況としては８月に職員より感染したと思われる利用者１名から徐々に広がりを見せ職員・利用者共に感染者をだしユニットの隔離をする状況に至った。今回の事により感染対策の難しさを改めて感じるとともに感染した高齢者の方の機能低下につながることを痛感することとなった。

特養事業所と同様に科学的介護に取り組み１名の方に対しては機能の向上と精神面の安定が生まれ一定の成果は出せていた半面、残りの２名の取り組みについては特養への入居などにより取り組みが途中で終わることもあり継続した取り組みの難しさも感じる状況であった。

次年度の取り組みについてはさらに科学的介護について追及していき入居に向けたロングショートの位置づけとしてだけではなく在宅復帰を念頭においたロングショートの在り方を模索していく。

事業所計画においての報告と反省

「意欲の向上で生活をより豊かにしていく。」ことを年度の目標として掲げて取り組みを行った。

入所してから特養を待つだけではなく機能の維持や向上を目指しそれぞれに継続した関わりを持つことで家族からも安心や喜びの声が聴かれることもあり一時は別の施設への入居を検討されていた方も利用者の状態をみてこの様子であればぜひここの施設にお願いしたいといってくださる状況も作ることができた。

コロナ渦の中でなかなか面会や状況をお伝えすることが難しかったがＬＩＮＥの活用をすることで家族にはタイムリーに写真や動画を提供することができ安心につながったと感じる。

人材育成においてはユニットのリーダーが現場不在になる状況が多い中チームが一致団結してユニットの現状に取り組み、特にリスク管理においては毎日の検討を行うことで事故防止につなげることができていた。１年間を通してとても頼もしく成長したと感じる。

短期入所生活介護事業所

総　括

令和４年度は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、事業所でも２度の休業を余儀なくされた年であった。

前年度に引き続き感染予防対策には意識して取り組んでいたが、利用者が入所時には症状は見られなくても、利用中に発熱し発症される事が見受けられた。

迅速な対応により感染拡大は防げたが、休止期間中は利用者や家族、ケアマネージャー等に迷惑をかけてしまった。

休止期間中はスタッフが他事業所の支援に入る事となり、他事業所を経験した事が無い者や久し振りに経験した者からは学びに繋がったとの言葉が聞かれた。

稼働率や利用者数に関しては休業に伴う減少はあるが、前年度の床数減少に伴う対応が良かった事もあり、継続しての利用には繋がった。

新規の依頼も増えてはいたが、入院や他事業所への入所に伴う利用者の減少が下半期は多く見られた。

今後も感染対策に継続して取り組みながら、信頼を損なわない様にスタッフ１人１人の成長とそれをチームワークに繋げられる様に取り組んで行きたい。

事業所計画においての報告と反省

Ｉ利用者がやすらぎをスタッフが成長の喜びを感じられる場所にしたい

①　　情報共有を基にした連携で顧客満足に繋げる（信頼・安全）

リスク集計からの検討評価や現場でのリアルタイムでの話し合いによるリスク管理に努めた。

情報を基にした対応で前年度にあった転倒事故は０件であり、リアルタイムでの動線環境作りや情報共有での予防が行えた。

上半期は１件アレルギー食（実際は嫌いで食べない）を確認不足で提供してしまった事、下半期は２件離設の是正があり、離設のうち１件は基よりリスクが高い方であったが、もう１件はリスクとしてあがっていない方であった。

リスクとしてあがってなくても認知症の進行に伴ったり、元気な方は出て行くリスクが常にある事を再認識させられた。

是正の件数が比較的少なかったのはリスクマネジメントについて研修で学んだ事を踏まえ、再認識や新たな学びでの取り組みが事故防止にも繋がっていたと感じる。

アクティブに関しては上半期は取り組みが弱かったが、年間を通しての業務改善への積極的な取り組みで効率化を図れた事や、ペッパー君の活用継続により下半期は上半期より積極的に取り組める様になっていた。

今後も情報を基にしたリスク管理と、利用者個人に応じた過ごし方や楽しみを考えながら支援を行っていく。

② 自分が成長する事でチーム力を向上させての目標達成につなげる（成長）

令和４年度に向けてとの施設長の言葉や前年度の事業所目標も踏まえ、事業所としても【成長】からのチーム連携に繋げる事を目標とした。

人事考課や個人目標での評価に取り組み、上半期は達成率が目標数値より低かった事を踏まえ、具体的にどうしていくかなどを話し合いながら１人１人との関わりを強く持てた事で、下半期は目標達成できた項目が多かった。

成長が感じられ日毎の対応は大きな問題もなくスムーズではあったが、次に繋げられる様にするチーム連携の部分で弱い所が見られており、次年度は連携と繋がりを意識して取り組んでいく。

通所介護事業所　のぞみの杜　ふれ愛

総　括

介護予防の意識が高まる中で、サービス利用の受け入れ窓口が明らかに変化している事、コロナウイルス感染症の影響と時代の変化に伴い、在宅における介護力が低下し、早い段階での施設入所の動きも明らかに増加が見られている。働く人材の確保も難しくなっている中、前年度からの課題としていた定員の見直しを行ない、令和４年11月より定員を70名→60名へ変更した。

その結果、曜日による利用者数の偏りも比較的解消され、稼働率も概ね80%を超えるなど安定した経営へと繋げる事が出来た。

3ユニット制となり１年が経過。２年目となる今年度は、利用者お一人お一人の身体レベル、認知症の状態、一日の過ごし方など、その方に合わせた過ごし方を再度見直し、「科学的介護」を展開した多職種での関わりからQOLの向上を目指した。排泄時の立位保持ができるようになった、食事の自力摂取、歩行力の向上など在宅生活の中での通所介護の役割を果たすことが出来ている事は成果である。

事業所計画においての報告と反省

「3ユニットの特色を生かし、楽しみながら成果を共有できる、活気のあるデイサービスを目指します。」

ユニット制の確立を目指し、お一人お一人の過ごし方の見直し行い、個別機能訓練の充実を図った。ひだまりユニットが出来た事でそれぞれのユニットの役割が明確化され、個別でのケアが充実しQOL向上へ繋がっていると感じる。

科学的介護の取り組みにおいても一定の成果を得られる事は出来たが、本人、家族、関係事業所で成果を共有し、喜びに繋げる事が出来るよう、来年度は連携強化、担当制の充実に向けてチームで取り組んでいく。

小規模型通所介護事業　（スヨさん家）

総　括

全国的なコロナ感染拡大。スヨさん家でも４名の感染にて３日間の営業中止となった事もあり、外食や外出に更に慎重になってしまい、地域交流活動なども殆んどできない状況であった。スヨさん家らしさを発揮する事が出来ないもどかしさのある一年となった。6月より隣接の建物を使用出来る事となり活動の幅を広げ生活意欲の向上に繋げ、出来る喜び、達成感を感じてもらう事を意識して取り組んだ。元気の湧からのサービス移行もあり、利用定着にも繋がっている。少人数だからこその雰囲気や、顔が見える・声が聞こえる・届く安心感につながっており、これは今後も大切にしていきたい。
長与町における地域密着サービスとしてのスヨさん家の役割を模索し、「スヨさん家らしさ」を取り戻すため、来年度もチームで取り組んでいきたい。

事業所計画においての報告と反省
「小規模を活かしてお一人お一人がその人らしく、楽しくかつ意欲的に過ごす」
With コロナになった現状と向き合いながら「どうしたら出来るのか」に考え方を切り替えて活動の幅を広げる事は難しかったが、手作業やおやつ作りなど日常の中に家事機能訓練として取り入れ、インスタグラム等で発信した。季節ごとの行事や認知症の方に対しての関わり、スヨさん家の自立支援などアピールする事が出来たことは成果である。
年度末にＡランク是正が発生。(企画行事中に転倒)長年スヨさん家をご利用して頂いている方々の身体レベルの低下も積極的な活動に躊躇してしまう要因でもある。来年度はその方に必要な支援は何か、過ごし方の見直しを行い「地域密着型」という魅力を活かして地域の方々と積極的に交流し、地域に貢献できるスヨさん家であるよう取り組みを行っていく。

元　気　の　湧

総　括

科学的介護の開始から２年目の今年度は、SMART の法則と PDCA サイクルを意識した動きを行なっていった。特に、根拠のある高品質なケアを提供する為には、「評価」の精度を上げ、課題・目標を抽出し、「目標に向かって何をどうするのか」と目的や目標をしっかり捉えた後に、繋がりのあるケアを考えて行った。

日常の業務の中でも同様に PDCA を意識づけることで、業務の改善や効率化に繋がり、安全管理に関しても、ヒヤリハットからの素早い対応と評価に繋がり、事故に至らなかったことは

成果として考えられる。また、そういった目標への繋がりとPDCAを意識したケアにより、根拠に基づいた繋がりのあるケアに近づいたことは人材のレベルアップに繋がったと考える。その反面、コロナや労働環境の影響で満足に取り組めなかった所も反省の一つであるが、ICTを活用しながら、各自が成長しながら業務の効率化が進んだ一年でもあった。

事業所計画においての報告と反省

「学ぶ楽しさ・挑戦する熱意を持ち、エビデンスを元にした繋がりのある専門的なケアの提供を通して、長与町の健康増進に貢献し、地域に認められる元気の湧となる」

科学的介護を開始し２年目となったことから、より詳細な在宅生活の評価を行い、具体的な目標を設定した後に、専門的な機能訓練を提供している。３か月・６か月単位で経過と先を見据えた評価を行いながら、成果を互いに実感し生活意欲の向上に繋げていった。

ICTの導入は元より、３MとPDCAを意識し効率化を進める中で、時間を生み出し運動プログラムを増やすことに繋がった。

プログラムを増やし、より一層自己選択・自己決定が出来る環境は、在宅においても「予定を組み立てられるようになった」「時間管理が出来る様になった」との声も聞かれ、生活への意欲向上に繋がったと考えている。

長与町で開催されている地域のサロンからの講座依頼も少しずつ増え、運動や脳若トレーニングを定期的に行えている。また、長崎県サロンインストラクター養成研修事業の開催にあたり、長与町地域包括支援センターと協働して地域の担い手の育成を行ったことや「認知症の共生と予防」の講義を通して、認知症に対する正しい知識や対応方法について伝えていっている。

居宅介護支援事業所

総　括

・地域の相談窓口として、介護、こども（要支援対象児童等見守り強化事業）、生計困難者（レスキュー事業）と様々なニーズに合わせて相談対応や必要な機関への橋渡しを実施できている。

・令和４年度はコロナの影響もあり、医療機関との直接の連携は制限されていたが、入院の場合には、早急に情報シートを作成し医療機関に送付。入院期間中は電話やテレビ電話を活用し連携を行っている。面会のできない家族の気持ちに寄り添い、医療機関からの情報を伝え、退院時にスムーズに在宅に移行できるように体制を整備することで、安心感に結び付けている。退院前に直接利用者に会えずに情報をアセスメントすることが難しい状況であるが、この３年間はそれが通常であり各ケアマネジャーも慣れ実施できている。令和５年度はコロナの状況も変わり、面会が可能となる可能性が高い。今後連携の方法も以前に戻ることが予測される。状況に応じた連携方法を臨機応変に対応していく必要がある。

・７月新人ケアマネジャーを迎え入れるにあたりQMSの見直しを行った。そのためスキル評価が現在の業務状況に適して実施できている。同行訪問やケアプラン点検を実施し、定期的に面

談を行いながら、業務内容だけでなく悩みや疑問を共に解決できている。スキル評価のたびに成長を感じることができており、指導に対して真摯に向き合う姿勢がある。今後の成長に期待できる。

事業所計画においての報告と反省

１．地域の相談窓口としての役割を果たし、福祉の担い手として選ばれる事業所を目指す
２．１人１人の強みをいかして高め合い、働きやすい新しい環境を目指します。

・相談件数は８２件と、前年度と比較して数は横ばい。多くの相談を頂くことができている。個別担当ケースでは予防委託ケースの増加は見られなかったが、介護給付ケースでは、登録人数がケアマネジャーの担当制限人数に達するなど、担当の振り分けに苦慮する場面も見られた。今後も多くの相談に早急に対応できるように、人員確保、職員のスキルアップを目指し取り組んでいくことが必要である。

・長崎県サロンインストラクター養成研修の開催。応募 45 名、参加 40 名。地域のサロンで活躍されている方々など多くの方々に参加頂いた。令和４年度で４年目の開催となり、リピートして参加頂こともできている。

・要支援児童見守り強化事業（支援 14 世帯）や生計困難者レスキュー事業（支援２世帯、相談 6 世帯）など、介護とは別ニーズにおける相談対応も随時実施。長与町役場こども政策課、長与町社会福祉協議会との連携を図り支援を実施できている。社会福祉法人として今後も地域支援の役割に努めていく。

・家族支援はのぞみの杜に来所参集での研修計画を進めていたが、コロナウイルス感染拡大を受け、開催を見送りとした。担当ケアマネジャーが訪問時に家族の悩みや負担の聞き取りを行い、家族介護負担に対する支援を行っている。

・災害 BCP では、長与町（福祉課、地域安全課、介護保険課）と利用者の福祉避難について協議を行い、重度な方々の事前登録について検討を行った。結果要件の提示を頂き、登録が行える体制が整ったことは、利用者や家族の安心に繋がることであり、必要時には提案を行っていく。感染 BCP も随時作成を行っている。

・リモートワーク体制について環境を整えている途中段階であり、ソフト変更に伴うデータ移行を行いながら、合わせて新しい働き方の選択に向け、体制を整えていく必要がある。
リモートワークの働き方を発信し、人員確保に繋げていく。

認知症対応型共同生活介護

総　括

前年度より、水分ケアに力を入れ、BPSD の軽減に取り組んでいたところ、今年度より科学的介護の実践が始まった。根拠のあるものだと改めて認識し、柔軟に進めることができた。全体的な水分摂取の確保、排泄面の ADL アップ、帰宅願望の軽減等に始まり、BPSD の改善にも繋がっている。全体的な落ち着き、穏やかさもありつつ、季節行事企画、その方の望む個人企画等、ここでよかったと思える、意欲を引き出す支援ができた。また外部評価では、大変いい評価を

得た。その後、評価指導員の実習先に選んでいただくことがあり、協力することができたのは自分達の自信となったといえる。

入居者動向でいえば、3名の方が医療機関と法人内へ住み替えで退居へつなげた。徐々に変化していく過程について、随時ご家族への説明と理解を得られ、次の過程へスムーズにつなげることができた。

また、専門性を挙げるためには、広く視野を持ち、進化する介護を先読みする力、目を養う必要がある。力はまだまだだといえる。

事業所目標においての報告と反省

「介護のプロとしてスマートな立ち振る舞いを目指し、入居者の望まれる暮らし・その人らしい人生の実現に努めます。」

入居者本人にそれぞれのアンケートで生活への満足度を図った。日頃よりコミュニケーションを密にすることにより、コロナ禍で制限はありつつ、本人の望む個別企画支援ができた。これらは、SNS等でリアルタイムで紹介することを心掛けた。しかし一方、家族の面会がコロナ禍により足が遠のいているように感じたのは否めない。

年度を重ね、リスク管理も強化できている。覚醒が上がったことによる科学的介護の取り組みの効果もある。結果的に後にAランク事故となった1件は悔やまれるが、今年度是正4件という件数はチームケアの結集だといえる。

また個々の個人目標に対しては、まずはセルフマネジメントができるよう互いに関わった。一進一退はあるが、それぞれの成長と自信につながっている。これら運営推進会議での事例発表、科学的介護事例も然り、足跡を残せた。

これら様々な取り組みや試行が入居者への安心の拠り所として繋がり、目標の成果となっていることが、スタッフ個々が実感してきたところである。

生活支援ハウス

総　括

今年度は、感染対策を意識していたにもかかわらず職員と入居者のコロナ感染があり、感染が高齢者の命にかかわることを改めて痛感することとなった。現状、入居者の入れ替わりもあり、元気な方が増えた一方でADL低下気味な方もいる。体調不良での救急搬送などもあり、緊急を要する場面も出て来ている。全職員が対応できるよう、夜間も含めマニュアルを作成、緊急時対応の研修も定期的に行い、入居者の状態変化も見逃さないよう発信していかなくてはいけない。また退職者が

あったことで、大幅な業務改善、業務内容の見直しを行った。

長年、当然のように行っていたデイサービス利用者の送迎だったが、入居者の状態変化により、リスクも負担も大きくなっていたため、声を上げることで本来の形に戻した。また初めての時短勤務者の採用を行い、不在の時間を設け、不在時、入居者に協力頂き、支障ないよう配慮した。今後も業務の見直しを行いながら、工夫をしていく。

事業所目標においての報告と反省

「安心して活き活きとその人らしい暮らしの継続を支援する。」

①入居者の要望を取り入れながら、一緒に考え企画立案する。

前期は企画を行えていたが、パート職員退職もあり不在の時間を余儀なくされ後期の企画はできなかった。入居者の入れ替わりもあったため内容、回数を検討していく。

②他事業所、外部との交流。

保育園のハロウイン交流ができ喜ばれていた。

③入居者や家族との関係の構築、ホスピタリテイの強化、上司、多職種との連携の強化で安心の生活の提供を行う。

転倒、住み替えなどは、家族、ケアマネジャー、多職種連携して早急に対応できた。今後は、皆高齢でもあるため、認知面や体調面での気づきも必要と感じる。実際に緊急時対応もあり、今後は定期的に研修を行なって行くこととする。大幅な業務改善も行っており入居者にも定着してきているが、入居者が不安にならないよう状況判断しながら業務改善を行なって行く。朝食については、入居者の要望を聞きながらスマイル・キッチンと連携して行なえ、喜んでいただけている。今後も要望を取り入れながら、継続していく。

スマイル・キッチン

総　括

今年度は厨房スタッフも科学的介護の４つの基本ケア（水分、運動、食事、排泄）を学び、多職種で自立支援介護に取り組んだ。特養ユニット会議に参加し、入居者の課題やニーズ・ケア内容を検討、キッチンにて咀嚼や嚥下をサポートする調理法を工夫した。水分ケアではお一人おひとりの好みで選択できるよう水分の種類を増やし、食事は常食化をめざして入居者の摂食嚥下を評価しながら多職種でモニタリング、ソフト食の方のメニューやおかずの一部を常食に変更するなど、個別対応を行った。

その結果「水分や食事摂取量が増え活気がでた」「食事や水分を自力摂取することができた」「オムツから布パンツに変わった」などの成果あり、入居者のその方らしい生活の支援ができた。

事業所計画においての報告と反省

1. ご利用者もスタッフも、笑顔になる、楽しみになる食事をつくります

お祝い膳	母の日、父の日、おせち料理
ユニット企画	手巻き寿司、昭和レトロ喫茶、デザートバイキング、 餅つき・ぜんざい会
イベント食	ユニットバイキング９回、110 歳誕生日ケーキ、夏祭り

○日常の食事は検食やご利用者の意見をもとにレシピや調理法を改善した。お祝い膳や企画では、ソフト食の方も常食を召し上がられる、小食の方が意欲的にたくさん召し上がれるなど、自立支援につながる新しい発見があった。

○嗜好調査（170 名）＋介護スタッフ
特養・ショートステイ・デイサービス・グループホーム・支援ハウス
満足７６％、　どちらかと言えば満足２１．１％
どちらかと言えば不満２．３％、　不満０．６％
調査内容をもとに、メニューバランスや食事量、温度などを調整した。

2. 多職種の連携を強化し、食を通じてご利用者が望む生活を支援します。
○科学的介護
水分ケア→お茶、コーヒー、イオン飲料に加えて、牛乳や果物ジュース、
カフェオレ、乳酸菌飲料、ゼリー飲料など飲み物の種類を増やす。
排便ケア→ファイバーや乳酸菌、オリゴ糖を活用し、腸内環境を整えた。
食事の常食化→特養入居者ミキサー食の方１名が常食に変更。
ソフト食の方 18 名のうち、７名が一部常食に変更。

3. 研修、勉強会によるキッチンスタッフのスキルアップを図ります。
○事業所内研修　６回、外部研修　４回、科学的介護（自立支援研修）毎月
○ＢＣＰ訓練
台風や大雪の前日に、停電を想定しクックチル調理（４日分）を保管しているチルド庫と自家発電を接続、必要な備品を揃えた。食品の保管方法や災害・感染が発生した時のマニュアルをメンテナンスし、業者との連携も強化した。

もりのほいくえん

総括

今年度は「保育の質の向上」が、これまでよりも、より具体的な形となるように職員間での話し合いの時間を多く持ち様々な問題点の改善策を検討した。職員が主体的に検討する形ができつつあり、それぞれが考え、保育技術の習得に取り組む姿勢も見られたが、具体的な解決には至っていないこともある。職員一人ひとりの経験値や能力の向上などの底上げが必要だと思われるので、長期的に取り組んでいきたい。

事業所目標においての報告と反省

・新型コロナウイルス感染症予防対策では、特に消毒の徹底とクラス別分離に力を入れた。その結果として感染拡大に繋がることもなく、継続的な保育の提供ができたと思う。

・職員それぞれが自分の役割を理解し、より主体的に動けるように、行事計画などは事前準備の取り組みを見直した。その結果、担当者が立案する時期をこれまでよりも早める必要があることがわかり、次年度は年間行事の一部の日程を年度初めに決定する改善策をとることとした。